

## 2. 地震の概要

ラクイラ市及び周辺地域の航空写真を写真-1 に示す。ラクイラ旧市街の北東～南西方向の地質縦断は図-1 に示す通りであり、厚く柔らかい湖成堆積層上に、石灰質礫岩や石灰岩が土石流や地すべりなどによって流れ込み、丘陵を構成するという特異な地盤構成となっている。このため、従来から、ラクイラ市及び周辺地域では地震動の増幅が大きいとして注目されてきた。地盤の固有周期は2秒程度と言われている (Luca et al., 2005)。

地震被害が著しかったのはラクイラ市及び周辺の Coppito、Onna、Ocre、Paganica、Fossa 等で、これらはいずれも Aterno 川沿いの沖積軟質地盤上に位置する。



写真-1 ラクイラ旧市街及び周辺地区 (Web)

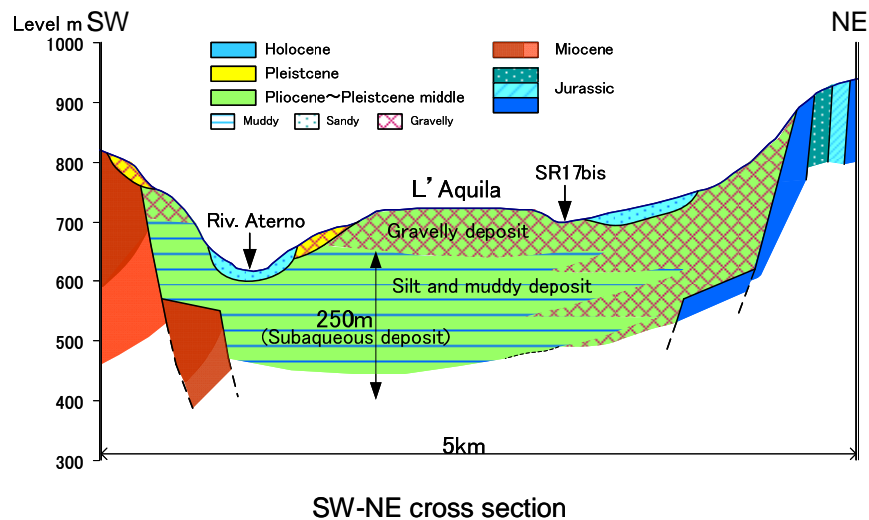


図-1 ラクイラ市周辺の南西～北東方向の地質構成

ラクイラの周辺地域では、これまでも 1315 年、1349 年、1461 年、1703 年、1915 年 (Fucino 地震)、1984 年 (Greco 地震、 $M_L=5.8$ )、1996 年 (Umbria 地震、 $M_S=6.1$ ) と度々地震被害を経験してきている (Bagh et al., 2007)。各所の観測記録に基づく、図-2 に示すように、ラクイラ地震は長さ 15~20km、幅 10~15km の NW-SE 正断層によって生じたとされており、マグニチュードは  $M_L=5.8$ 、 $M_W=6.2$  である。ラクイラ市はじめ、上述した Coppito、Onna、Ocre、Paganica、Fossa 等町村はいずれも断層の上盤側に位置する。

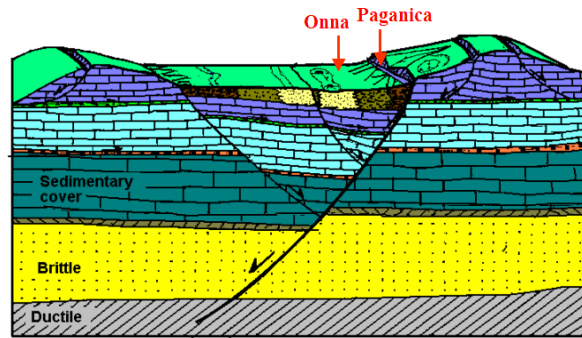


図-2 断層構造 (modified from Dramis and Blumetti, 2005)